

「女性リーダーと議員とのカフェ・ド・ギカイ」のテーマに対する参加者の意見と議会の回答

テーマ1：各団体の活動を通じて、日頃感じている課題は

(※) 参加者の意見・議会の回答は、簡略化して記載

団体名	役職	氏名	参加者の意見(※)	担当	議会の回答(※)
高根沢町女性団体 連絡協議会	会長	ナカザワ 仲澤 ヨシコ 佳子	<p>更女会の会長を6年務め、会員の増大・定着に時間を費やした。 (当初は六十数人の会員で、現在は百二十数人の会員) 近年の状況は、会員の退会、役員のみ手不足が、目下の課題かなと思われる。 これは、他の6団体様も同様。 マンネリ化した運営の打破、年齢を超えた会組織の育みが「新しい輪」になるのでは。</p>	神林	<p>様々な団体で、会員の退会や役員のみ手不足が深刻化していることを受け止めている。 この問題は、大変難しいと感じている。事業活動がマンネリ化している事もあるので、新たな発想を取り入れるのも、一つの手だと思う。 今後も仲澤会長の豊富な人脈で、会員を呼び込んでいただければと期待している。</p>
高根沢町 交通安全協会女性部	会長	タムラ 田村 ケイコ 啓子	<p>高齢化に伴い、活動休止や解散等と、活動できる支部も減少してきている。 基本的に免許を持っている人は、全て役員になれるが、高齢で免許を返納してしまうなど、役員に該当する資格のある人も減ってきてしまっている。また、先日の警視庁への視察研修でも若い方の参加が非常に少なく残念。 折角、活動が復活しても組織がしっかりしていないため、支部長以外の支部員が誰なのか分からない等の問題がある。 親会(男性の安協組織)や自治会が、しっかり組織作りをして欲しい。 町は、人を呼び込む施策を実行し、若い人が参加しやすい組織の枠組みを作っていく欲しい。</p>	小池	<p>どこの団体も会員の人数不足や活動休止などの局面に立たされていることは充分承知している。 これが決定的な解決策になるという方法は、なかなか思い当たらないのが現状。 女性部は、15年ほど前と比べると、3団体が徐々に無くなってしまっている現状を把握しているが、その対策についても難しいと考えている。 2018年に栃木県は、横断歩道での車の一時停止率が、全国でワースト1位の0.9%だったが、2023年には、3位に急浮上した。これは、皆さんの日頃の活動の成果だと感じており、これからも活動を続けて欲しいと願っている。</p>
	副会長	カマクサ 鎌草 カズエ 一枝			
高根沢町商工会 女性部	女性部長	コボリ 小堀 トキ子	<p>男性の商工会も女性部も、とても人数が少ない。 実際に活動しているのは10名ほどで、残り5名は名前だけ連ねている状態のため、学童ボランティア訪問や傾聴ボランティアなどの活動にも限りがある。 家族の理解がないと参加ができないことが、人数が少ない原因になっていると思う。 私は会長を6~7年やっているが、やっと交代してくれる人が見つかってほっとしている。</p>	菅谷	<p>人数が少ないので活動ができないと直接的にとらえれば、人数を増やすか事業を減らすかになってしまう。 事業を減らすことは、目的や意義が達成できないため、人数を増やすことが必要なのだと思う。 しかしながら、人数集めは大変である。 私は、次の3つの方策を提案する。 ①1本釣りの勧誘する場合に、口頭だけではなく、募集のチラシに活動の目的や意義、活動状況を入れて作成しお願いする方法。 ②商工会の会員やその家族以外の一般の女性の方が参加できるように規約などを変える方法。 ③女性部という名称は残したとしても男性の方も協力できるような仕組みに規約を変える方法。</p>

団体名	役職	氏名	参加者の意見（※）	担当	議会の回答（※）
高根沢町ひとり親家庭福祉会	会長	クリハシ 栗橋 サチヨ 幸子	<p>① ひとり親家庭の支援活動を中心としているが、プライバシー、個人情報保護の問題もあり、新しいメンバー確保が難しい。</p> <p>民生委員についても母子部会があり、ひとり親家庭福祉会と同じで、該当家庭の情報がもらえない。</p> <p>障がい者や高齢者は、災害時の支援の関係もあるのでデータももらっているが、ひとり親については、何のデータももらっていないので、誰がどこに住んでいるなどの情報が分からない。また、コロナで学校との交流もなくなってしまい、全く情報が入らなくなってしまった。</p> <p>平成29年に無料の学習塾を始めたが、学校の周知や協力は全くない。</p> <p>唯一、阿小の校長先生だけが、ひとり親の家庭に連絡してくれていた。</p> <p>学習塾は、子ども同士やお母さん方の口コミで広がってもらっているため、あまり集まらない。その学習塾に来てお母さん方を通じて、フードバンクのお米を渡したりしている。また、就労支援やその他のアドバイスなども行っている。</p> <p>若い方がたくさん必要なのは、人数が多いほど、たくさんのデータを収集でき、ひとり親家庭の問題点が見えてくるからだ。これらの私たちが得たものを行政にぜひ反映させてもらいたい。</p> <p>② 若い人は対面よりSNSでのつながりを求めている。</p> <p>リーダー人材の不足、低収入、子育て、多種の問題があり、自分の生活だけで大変。</p> <p>支える側のリーダーが見つからなければ、この会は、消滅してしまうので、次のリーダーを探している。</p>	森	<p>① 国の個人情報保護法の問題があり、ひとり親の50名ほどの会員の連絡先を知ることが難しいのは問題。</p> <p>「町災害時要援護者登録制度」があるが、この情報が自治会、消防団などで共有できないので、要援護者登録している人の避難ルートが作成できない状況。</p> <p>個人情報のしぼりが強すぎる。もう少し、縛りをゆるくして、繋がっていく必要があると思う。</p> <p>② ひとり親の世帯の皆さんは、毎日が精一杯で、大変な中で生活をしている。だから、リーダーになってもらえるのは、難しいと感じている。子育てと働くので精一杯なので、あとは、若い人で、ちょっと余裕がある人に何とか一緒にやってねと引き込むしかないのかなと思う。</p>
高根沢町更生保護女性会	会長	ナマイ 生井 カヨコ 佳世子	<p>① 毎年恒例の「社会を明るくする運動」の推進委員会が、6月13日に行われた。7月はその運動の強調月間で、各団体が車でパンフレット等を配布しているが、議員さんの参加者が少ない。広報たかねざわで周知しているにもかかわらず、参加しないのは非常に残念だ。</p> <p>また、「きらきらフェスタ」も、毎年、一人ひとりの議員にハガキを出しているが、来てくれた議員さんは、わずか。「子どもたちは町の宝」と言っている議員さんが、なぜ、来てくれないのか。</p>	澤畑	<p>① 耳の痛い話であり、大変申し訳ない。議員個人の考えをちゃんとしてもらうしかない。今後は、周知を徹底してもらい、積極的に参加するよう心掛ける。</p> <p>② 地域住民を含めた防災訓練は、コロナ前は毎年実施していた。赤十字活動がどんな活動か知っている町民は少ないと思う。私は、甘酒を配って少し募金をしたが、これからは、議員・町民全体で、少しでも協力できる体制を取っていかねればと思う。更生女会の役割は、特に決まっていらないと思う。皆で話し合っって検討することが大事。</p>
	副会長	イシツカ 石塚 ケイコ 啓子	<p>② 更生女会では、赤十字活動も行っているが、防災訓練として、毎年2回、非常時のためにご飯の炊き出しを行っている。町では、防災訓練を行っているのか。そして、どのような仕組みになっているのか。また、更生女会の役割は何か。</p>		

団体名	役職	氏名	参加者の意見（※）	担当	議会の回答（※）
高根沢町食生活改善推進員協議会	会長	ムラカミ 村上 かつい	① 会員の人数減少・高齢化。男性に参加してほしい。 ② 食改の存在・活動が多くの人には知らない。 ③ 部の方々にだけしか活動をする事ができない。 ④ 郷土食の普及をしたい。 ⑤ 残業などが少なくなれば、男性も社会活動をする事ができるのでは。	野口	① 同年齢の方なら話が合いやすく集まるのでは。 ② 議会だよりに「カフェ・ド・ギカイ」の内容を載せるが町としても広報活動を積極的にやっていくべき。 ③ 少人数でもイベント等に参加して、活動を継続していくのが、知ってもらう機会にもつながる。 ④ イベントなどで、サンプルとして提供してみてもいいのでは。または、学校給食と連携するのもいいのでは。 ⑤ 働き方改革で、早めに帰宅する男性も多くなってきたと思うので、男性の社会活動推進が図れるよう議会として提言できる形がとれるように努める。
	副会長	イイヤマ ケイコ 飯山 啓子			
JAしおのや高根沢地区女性会	会長	コボリ エイコ 小堀 栄子	親子（小学生以下）を対象とした食農教育を年に一度行っている。 参加者は、楽しそうにおにぎり作りや味噌作りをしているが、なぜお米の消費量が減ってしまったのかと考えることがある。 食と農は切り離せない。国産国産も伝えていきたいが、今の子どもたちは、「食べる」という事をどの位の人が意識をしているか。	齋藤	人が生きていく上で、食べることは重要。その中で、食農教育に取り組んでいただき大変感謝している。様々な経験を通じて、食に対する知識、バランスの良い食をとる力を身につける。そして健全な食生活を営む力を育む。食べることは、生涯に渡って続く基本的な営み。食育を通じて親子が一緒に食事の準備や食べることは大切。 しかし、現代の子は食に関しては無頓着で、食べることは当然と考えていると推測する。 私は、子どもたちが、食べ物の生産体験をして、家族が一緒になって食卓を囲むことが良いと思う。 これからも、子どもたちが健やかな成長ができるよう皆さんにご協力いただきたい。
	副会長	イシツカ ケイコ 石塚 啓子			

団体名	役職	氏名	参加者の意見（※）	担当	議会の回答（※）
高根沢町女性防火クラブ	委員長	ウヅカ チヨ 宇塚 千代	<p>私が1年にも満たない経験のため、課題は別段に考えつかない。</p> <p>事務局の方々には大変お世話になっている。</p> <p>経験のない私を丁寧に指導いただき感謝。</p> <p>課題としては、会員はいるが、その中で、事務局の方が手伝ってくれる人を集めるのに苦労しているのではないかと思う。</p> <p>私は、文挾地域から女性防火クラブを1名1年で選出されたが、「女性」と名称がつくだけで、なり手が見つからない現状である。</p> <p>女性防火クラブの目標に「家庭の初期消火は女性から」というフレーズがあったが、今はもはや男性でもかまわない世の中であり、名称に「女性」と付け加える必要はないのではと思う。</p>	小林	<p>「経験が不足している」とか、「女性が家庭の仕事を中心だ」とか話があったが、全くそんなことはなく、皆さんとても活躍されていると思う。</p> <p>防火クラブの目的は「火を防ぐ」ことなので、日常の家事に対する意識をどう高めていくか、その啓蒙が問われているのではないかと感じる。</p> <p>いずれにしても、現代の子は、火の取り扱い方が肌感覚で分からない、私も皆さんも電化製品の中に暮らしていて、いざという時の対応が取れないと思う。</p> <p>皆さんの活動が普段、見えにくい所ではあるが、会の目的を再確認して、やっていただくことが社会の安定につながると思う。</p> <p>また、防火クラブ以外の団体も含め、公設民営または官設民営というか、役所が団体を作って、皆さんに活動をお願いする形で、立場的に役所が常に上に立っているので、それを打破していく気持ちで、地域の方と連携をとり、火の取り扱いや防火に対する啓蒙をやっていただくことが大切。</p> <p>皆さんの仕事は軽くはなく、毎日の活動が、もっと評価されるべきだと思う。</p> <p>少人数でも悲観することなく、今後も着実に取り組んで欲しい。</p>
	副委員長	コバヤシ ヨウコ 小林 陽子			